

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 四国財務局長

【提出日】 2019年3月14日

【四半期会計期間】 第19期 第1四半期(自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)

【会社名】 ベルグアース株式会社

【英訳名】 Berg Earth co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山口 一彦

【本店の所在の場所】 愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1

【電話番号】 0895-20-8231(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営管理部管掌 薬師寺 朝徳

【最寄りの連絡場所】 愛媛県宇和島市津島町北灘甲88番地1

【電話番号】 0895-20-8231(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役経営管理部管掌 薬師寺 朝徳

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 当第1四半期連結会計期間より、日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第1四半期連結 累計期間	第19期 第1四半期連結 累計期間	第18期
会計期間	自 2017年11月1日 至 2018年1月31日	自 2018年11月1日 至 2019年1月31日	自 2017年11月1日 至 2018年10月31日
売上高 (千円)	463,279	464,542	4,698,508
経常利益又は経常損失( ) (千円)	252,373	247,271	29,277
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	168,430	166,912	29,212
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	179,188	176,355	15,332
純資産額 (千円)	1,137,148	1,151,184	1,340,236
総資産額 (千円)	3,203,145	3,259,517	3,711,252
1株当たり当期純利益又は1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	132.65	131.46	23.01
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			22.50
自己資本比率 (%)	29.4	29.8	31.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結期間累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

#### (1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、企業の経営成績や雇用情勢が改善など、引き続き緩やかな回復基調で推移しましたが、米国・アジアの政策及び経済動向、金融資本市場の変動、今後想定される消費税率引き上げの影響など、先行きは不透明な状況となっております。

当社グループの第1四半期連結累計期間(11月～1月)の業績につきましては、主力製品である野菜苗の需要が全国的に減少する時期であるため、売上高が他の四半期と比較して少額となる傾向にあります。一方、コスト面では、減価償却費や間接部門の人件費等が各四半期に概ね均等に発生することに加え、燃料費等の冬季経費が発生するなど季節的な業績変動要因があります。

このような状況の中、当第1四半期連結累計期間の売上高は464,542千円と前年同四半期と比べ1,263千円(0.2%)の増収となりました。損益面につきましては、営業損失244,570千円(前年同四半期は営業損失254,243千円)、経常損失247,271千円(前年同四半期は経常損失252,373千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は166,912千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失168,430千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、セグメントの売上高につきましては、外部顧客への売上高を記載しております。

#### (野菜苗生産販売事業)

当事業部門におきましては、引き続き閑散期の受注拡大のために取組んできました茨城県内向けのメロン苗や、苗の多品目化へ向け推進しているホームセンター向けの玉ねぎ苗や花苗等の売上が好調に推移した一方、生産者の作付け時期の変更等によりトマト苗の受注が減少した結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は438,335千円と前年同四半期と比べ3,056千円(0.7%)の減収となりました。損益面につきましては、茨城農場の生産能力拡大による生産性の向上等に加え、全国的な暖冬の影響により、冬季経費の増加要因となる重油等の燃料の使用量が減少し、製造経費が減少した結果、セグメント損失(営業損失)は133,933千円(前年同四半期はセグメント損失148,590千円)となりました。

品目分類別の売上高は次のとおりであります。

品目分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
トマト苗	118,420	89.5
キュウリ苗	138,212	97.5
ナス苗	11,712	99.8
スイカ苗	11,562	116.6
メロン苗	99,537	110.1
ピーマン類苗 (注)	20,987	87.5
その他	37,902	121.6
合 計	438,335	99.3

(注) ピーマン類として、ピーマン・パプリカ・シシトウ・トウガラシをまとめて表示しています。

規格分類別の売上高は次のとおりであります。

規格分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
ポット苗(7.5cm～15cm)	219,815	96.7
当社オリジナル(アースストレート苗、ヌードメイク苗、e苗シリーズ、高接ぎハイレグ苗、ウィルスガード苗)	110,696	91.7
セル苗(288穴～72穴)	77,901	112.4
その他	29,921	124.7
合 計	438,335	99.3

(注) ポット苗は、ポリエチレンのポット(ポリ鉢)で育苗した一般的な苗であり、ポットのサイズが大きくなると苗のサイズも大きくなります。セル苗は、小さな穴が連結した容器(セルトレー)で育苗した苗であり、穴数が増えると苗のサイズが小さくなります。

納品地域分類別の売上高は次のとおりであります。

納品地域分類	売上高 (千円)	前年同四半期比 (%)
北海道・東北	29,895	68.3
関東	314,944	101.8
甲信越	19,851	81.9
東日本地域 小計	364,691	96.7
中部・北陸	13,383	97.7
近畿・中国	18,287	91.3
四国	13,469	98.2
九州・沖縄	28,502	170.9
西日本地域 小計	73,643	114.9
合 計	438,335	99.3

(注) 静岡は「甲信越」に含めて表示しております。

(農業・園芸用タネ資材販売事業)

当事業部門におきましては、海外の種苗会社から優良な品種を選抜し、量販店に対して家庭菜園向けの品種提案等を行うなどの販売推進を行ったことにより種子売上高10,419千円(前年同四半期比41.7%増)となりました。また、培土等の農業資材の販売も増加した結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は23,621千円(前年同四半期比27.4%増)となりました。一方で販売促進費等の増加により、セグメント損失(営業損失)319千円(前年同四半期はセグメント利益1,029千円)となりました。

(海外事業)

当事業部門におきましては、現在、中国山東省にある子会社にて野菜苗及び花苗の生産、鉢花(シクラメン)の生産、トマト等の青果物の生産を中心とした施設園芸、生産技術開発のための試験等を行っております。

また、中国北京の関連会社では、本格的な中国国内での苗事業開始に向けての準備を進めており、第三者割当増資により子会社となった韓国の株式会社B Jアグロでは、韓国国内での肥料等の販売開始に向け、商品の選別及びマーケット調査を行っております。引き続き、海外事業部を中心に海外での事業拡大に向けて技術開発並びに中国国内を中心に農業関連の市場開拓等を積極的に行っております。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高2,064千円(前年同四半期比28.3%減)、セグメント損失(営業損失)11,656千円(前年同四半期はセグメント損失13,869千円)となりました。

(その他の事業)

当事業部門におきましては、貸し農園事業を行っており、売上高521千円(前年同四半期比11.1%増)、セグメント損失(営業損失)941千円(前年同四半期はセグメント損失5,329千円)となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結累計期間の資産の合計は、前連結会計年度末と比べ451,734千円(12.1%)減少の3,259,517千円となりました。これは、現金及び預金の減少71,097千円、受取手形及び売掛金の減少630,632千円、棚卸資産の増加163,128千円等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結累計期間の負債の合計は、前連結会計年度末と比べ262,682千円(11.0%)減少の2,108,333千円となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少178,495千円、長期借入金の減少51,679千円等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結累計期間の純資産の合計は、前連結会計年度末と比べ189,052千円(14.1%)減少の1,151,184千円となりました。これは、剰余金の配当及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は15,584千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,500,000
計	3,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年1月31日)	提出日現在発行数(株) (2019年3月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,269,900	1,269,900	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	1,269,900	1,269,900		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2018年11月1日～ 2019年1月31日		1,269,900		331,494		241,494

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,267,900	12,679	
単元未満株式	普通株式 1,800		
発行済株式総数	1,269,900		
総株主の議決権		12,679	

(注) 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2018年10月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

2019年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ベルグアース株式会社	愛媛県宇和島市津島町北灘甲 88番地1	200		200	0.0
計		200		200	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2018年11月1日から2019年1月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2018年11月1日から2019年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。



## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	508,068	436,971
受取手形及び売掛金	1,035,137	404,504
商品及び製品	5,845	5,857
仕掛品	57,306	172,822
原材料及び貯蔵品	103,548	151,149
その他	39,908	58,485
貸倒引当金	1,782	1,652
流動資産合計	1,748,031	1,228,138
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,041,303	1,033,748
機械及び装置（純額）	211,338	208,561
土地	505,709	507,529
その他（純額）	22,168	24,406
有形固定資産合計	1,780,519	1,774,245
無形固定資産	38,905	39,330
投資その他の資産	143,794	217,802
固定資産合計	1,963,220	2,031,378
資産合計	3,711,252	3,259,517

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	520,894	342,399
短期借入金	1 500,000	1 500,000
1年内返済予定の長期借入金	217,050	213,362
未払金	135,496	174,364
未払法人税等	29,689	3,297
賞与引当金	49,999	22,066
その他	65,306	55,692
流動負債合計	1,518,436	1,311,182
固定負債		
長期借入金	689,783	638,104
資産除去債務	75,732	75,967
その他	87,062	83,080
固定負債合計	852,578	797,151
負債合計	2,371,015	2,108,333
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	331,494	331,494
資本剰余金	245,674	245,674
利益剰余金	574,894	395,285
自己株式	293	293
株主資本合計	1,151,770	972,161
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	329	163
為替換算調整勘定	1,327	1,013
その他の包括利益累計額合計	997	1,176
新株予約権	554	554
非支配株主持分	188,910	179,646
純資産合計	1,340,236	1,151,184
負債純資産合計	3,711,252	3,259,517

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年11月1日 至2018年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年1月31日)
売上高	463,279	464,542
売上原価	484,693	466,735
売上総損失( )	21,413	2,192
販売費及び一般管理費	232,830	242,377
営業損失( )	254,243	244,570
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	70	70
受取手数料	607	2,886
補助金収入	2,728	1,597
その他	1,289	958
営業外収益合計	4,696	5,512
営業外費用		
支払利息	1,044	1,137
持分法による投資損失	1,652	6,472
その他	129	603
営業外費用合計	2,826	8,214
経常損失( )	252,373	247,271
特別損失		
固定資産除却損	-	286
特別損失合計	-	286
税金等調整前四半期純損失( )	252,373	247,558
法人税、住民税及び事業税	512	512
法人税等調整額	74,362	71,894
法人税等合計	73,850	71,382
四半期純損失( )	178,522	176,176
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	10,092	9,264
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	168,430	166,912

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年11月1日 至2018年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年1月31日)
四半期純損失( )	178,522	176,176
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	521	492
為替換算調整勘定	144	313
その他の包括利益合計	666	178
四半期包括利益	179,188	176,355
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	169,096	167,091
非支配株主に係る四半期包括利益	10,092	9,264

【注記事項】

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。当第1四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入金の未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
当座貸越極度額の総額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	500,000千円	500,000千円
差引額	200,000千円	200,000千円

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入金に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年1月31日)
ファンガーデン株式会社(注)	31,271千円	26,543千円
株式会社むさしのタネ	20,000千円	20,000千円
計	51,271千円	46,543千円

(注) 債務保証額から持分法適用に伴う負債として計上された金額を控除した金額を記載しております。

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自2017年11月1日至2018年1月31日)及び当第1四半期連結累計期間(自2018年11月1日至2019年1月31日)

当社グループの第1四半期連結累計期間の売上高は、主力製品である野菜苗の需要が全国的に減少するため、他の四半期連結会計期間の売上高と比べて著しく減少する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年11月1日 至2018年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年11月1日 至2019年1月31日)
減価償却費	44,891千円	42,075千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2017年11月1日至2018年1月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年1月27日 定時株主総会	普通株式	12,697	10.00	2017年10月31日	2018年1月30日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自2018年11月1日至2019年1月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年1月30日 定時株主総会	普通株式	12,697	10.00	2018年10月31日	2019年1月31日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2017年11月1日 至 2018年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	野菜苗生産 販売事業	農業・園芸 用タネ資材 販売事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	441,392	18,536	2,881	462,811	468	463,279	-	463,279
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	72	999	1,071	3,488	4,560	4,560	-
計	441,392	18,609	3,880	463,882	3,957	467,840	4,560	463,279
セグメント利益又は 損失( )	148,590	1,029	13,869	161,429	5,329	166,758	87,484	254,243

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貸し農園事業及び育種事業であります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 87,484千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	野菜苗生産 販売事業	農業・園芸 用タネ資材 販売事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	438,335	23,621	2,064	464,021	521	464,542	-	464,542
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	3,795	3,795	-	3,795	3,795	-
計	438,335	23,621	5,860	467,817	521	468,338	3,795	464,542
セグメント損失( )	133,933	319	11,656	145,909	941	146,851	97,718	244,570

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、貸し農園事業であります。

2. セグメント損失( )の調整額 97,718千円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失( )と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年11月1日 至 2018年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年11月1日 至 2019年1月31日)
1株当たり四半期純損失金額( )	132円65銭	131円46銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	168,430	166,912
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額( )(千円)	168,430	166,912
普通株式の期中平均株式数(株)	1,269,727	1,269,700

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年3月14日

ベルグアース株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川合弘泰	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	千原徹也	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているベルグアース株式会社の2018年11月1日から2019年10月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(2018年11月1日から2019年1月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(2018年11月1日から2019年1月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ベルグアース株式会社及び連結子会社の2019年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。